



---

## 2 学級通信を考える～その17：書く手段

山口市立平川小学校 梶田崇晴

---

みなさんは、学級通信をどうやって作成していますか？  
たぶん、パソコンで作成されることがほとんどでしょうね。

私の場合、最近はずっかりパソコンに頼りきっている状態でした。しかし、13年前まではすべて手書きだったのです。その頃ワープロは持っていたのですが、学級通信をワープロで書くと冷たい感じがするようで嫌だったのですね。それがいつの間にかワープロに頼ってしまうことになり、そして、最後はパソコンに浸ってしまうようになったというわけです。やはり文化の波には逆らえなかったということですね。

パソコン（ワープロ）で通信を書くメリットは、

- 1) 文章の校正が容易にできる。
- 2) 様々な字体が楽しめる。
- 3) 写真や図（イラスト）を入れることが簡単である。
- 4) 写真や図（イラスト）を入れた場合の構成が簡単である。
- 5) 過去のデータをそのまま使える。

といったところでしょうか。

逆にデメリットを考えると、

- 1) 冷たい感じがする。
- 2) 1ページの字数をきちんとそろえることが難しい。
- 3) 誤字・脱字がつい多くなる。
- 4) ちょっと変わった紙面構成がやりにくい。

ということでしょうか。

今、私の勤務校に、手書きの学級通信を出された方が二人おられます。読ませてもらうたびに、なんか心がほっとします。

---

## 3 中国学級活動ネットワークin米子 報告11～調査官の話その7

---

今回は、これからの特別活動がどう変わっていくのか、また私たちには何ができるのかについて話されたことを紹介します。

今度の指導要領改訂に健全な自尊感情や責任感を育てるために異年齢集団活動を重視しようという考えが出されているようです。健全な自尊感情って何だろう？調査官から、そんな問いかけがありました。日本の子どもは、国際的に見て「自分にいいところがある」といったことや「自分が好きだ」といった自尊感情が極めて

低いそうです。これを何とかしないといけないといった時に、同年齢では難しい子もいるんじゃないかということから、一つの切り口として異年齢をやりましょうということになったということです。自尊感情というのは、自分が好きとか、自分にはいいところがあるといった価値観なんです。その「いい」という価値観が多様化してきて、いいのか悪いのか分からなくなっているという問題もあるということです。その結果「自分のやりたいことをやって何が悪い」と平気で自己主張を通す、つまり、わがままやうぬぼれが表出されるようになってきているということです。「みんなちがってみんないい」という金子みすゞの詩がありますが、それを極端にやりすぎれば、わがままになってしまうということなんです。「みんなちがってみんないい」けども、みんなに合わせないといけない部分もあるはず。それが、共に生活していくというだということ。ただ「みんないい」とだけ言っただけでは駄目ということです。社会性の問題でいえば、社会参加について、社会科で民主主義の意義は教え、その価値観は道徳できちんとやり、実践を特活でやりましょうということだそうです。そのような役割分担をきちんとやって教育課程をつくりましょうというのが、今の改訂の流れなのだそうです。

それから、人間が生きていく上でどうしても必要なことである話合いとか意見、質問、多数決、選挙、集団への寄与など、そういうのをどこで教えるかということについて、これらは公と私の関係でもあると言われました。例えば思いやりをどう教えるかということについて、調査官は、誰かから思いやりの行為を受けて、その心地よさから思いやりを知って、他の人にもやってあげようという気配りになるんじゃないか、ということをお話しされました。心は見えないけれども、心遣いは見えるというわけです。やっぱり行動や態度に表すといったことが大事で、それは学級の中でいくらだってできるということです。先生がどういうことを誉め、認め、奨励するといったことだけでも、それは育てられるということです。それから自信を持たせるということも大切だということです。自尊感情が低い子どもたちに役割を与えて、その役割をやってよかったと思わせて終わることができたかどうかというのが極めて大切だということです。今、子どもたちに役割がないそうです。その理由は、子どもたちに任せると大変になるので、自分でやっちゃおという先生がいるからだそうです。子どもにやり遂げた喜びを味わわせるということは大変なことだけど、期待することは要求することだと言われました。「あなたならできる、もっとできる」と。励ますということは要求すること、ただ「がんばれ」と言うのは違うということです。それには適度な課題を与えるということも大事だし、それをきちんと本人に返して誉めてあげるということも大事。それをきちんとやれるかどうか、ちゃんとプランを持って、次はこういうことをやってみようと、手だてがきちんとある先生と、なんとなく場当たりの感覚でやっている先生と全く違ってくるということです。

---

#### 4 メルマガ編集部からのお知らせ

---

◆次号の予告◆◇◆

第36号は7月上旬ごろ発行予定です。

次号は、「係活動」について第7弾をお送りする予定です。

原稿の投稿がありましたら、そちらを優先することがあります。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は159名です。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。

登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。特活の実践を広げ、共有していきましょう。

7月は1学期の終わりの月。そこで、1学期のまとめと、夏休み前の学級経営について情報交換したいと思っています。先生方が取り組んでおられるミニ実践を紹介してください。

本メールマガジンでは、今後、以下のようなことについての情報を交流し合いたいと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

<実践投稿のヒント>

7月頃 夏休み前の学級経営・1学期のまとめ

8月頃 子どもとのつながりを考える

9月頃 2学期スタートの学級経営・運動会と学級をつなぐ取組み

10月頃 意欲的に行事に取り組む手だて

11月頃 学級目標の見直し・音楽会と学級づくり

12月頃 お楽しみ会の在り方・年賀状と学級づくり

1月頃 新年の誓い・新たな気持ちを学級づくりに生かす

2月頃 文集づくり・6年生を送る会のシナリオ

3月頃 お別れ式の持ち方・先生の通知表

以下のアドレスまでよろしくお願ひします。

sugi-net@c-able.ne.jp

＝＝＝  
山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（防府市立西浦小）

能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

＝＝＝